

## 令和7年度 千葉県高等学校総合体育大会サッカー大会女子の部 総評

### 【はじめに】

令和7年4月26日(土)、29日(火)、5月4日(日)、6日(火)、10日(土)の日程で千葉県高等学校総合体育大会サッカー大会女子の部が行われた。21チーム(単独チーム17チーム、合同チーム4チーム)が、千葉県の頂点を目指してトーナメント方式で試合を行った。

ベスト4進出校は流経大柏、暁星国際、市立船橋、八千代松陰の4校で、準決勝がスポレクパークD面、決勝がゼットエーオリプリスタジアム、3位決定戦がスポレクパークD面にて行われた。優勝が流経大柏、準優勝が暁星国際、第3位が市立船橋という結果にて、令和7年度千葉県高校総体の幕を閉じた。優勝した流経大柏は令和7年5月24日(土)から行われる第15回関東高等学校女子サッカー大会(兼)全国高等学校総合体育大会サッカー競技関東予選に出場する。

### 【今大会を振り返って】

今大会のベスト8は、公立3校(市立船橋、市立柏、幕張総合)・私立5校(流経大柏、暁星国際、八千代松陰、拓大紅陵、千葉明德)である。所属リーグとしては関東リーグ所属が3校・千葉県1部リーグ所属が5校である。昨年度行われた新人体育大会と同じ顔ぶれの高校となり、昨年度の勢いを持って順当に勝ち上がったといえる。しかしながら延長戦やPK戦に突入する試合が多くあり、拮抗した見応えのある好ゲームが多く展開された。

準決勝の2試合では、1点差のゲームと延長戦での決着となり、ベスト4進出チームの力は以前よりも僅差になってきている印象である。同様に3位決定戦も1点差のゲームで、白熱したゲームが展開された。勝利した市立船橋はチーム全体でのパスワークが見事であった。そして決勝戦ではPK戦での決着となった。惜しくも準優勝となった暁星国際は、GKを中心とした固い守備から縦に早い攻撃を展開した。優勝した流経大柏は選手一人ひとりの個人技術が高く、チームとしてのボールの動かし方、攻守の切り替えといったチーム戦術を全体で共有できていた。

昨年度より全日本高等学校女子サッカー選手権大会への出場枠が1チームとなったことで、6月より始まる選手権予選では、各チームが優勝を目指して選手権に臨む。今後は関東リーグ、県リーグを通じて千葉県内の各チームが切磋琢磨し、チーム力をつけていくであろう。千葉県の頂点を取るのには容易ではなく、今後も熾烈な争いが繰り広げられることが予想される。

### 【大会運営について】

今大会は天候不良の影響が心配されたが、運営に携わっていただいた先生方や補助生徒の尽力で、予定通りの日程で行うことができた。特に準決勝・決勝戦・3位決定戦は雨天の中ではあったが、多くの保護者や関係者の方々、OGが見守る中で、見応えのある好ゲームを展開できたことは特筆に値する。また、今大会が大きな事故やトラブルがなく無事に終えられたことは、大会の運営に携わっていただいた全ての方々のお力によるものである。皆様方に感謝の意を表すとともに、優勝した流経大柏の栄誉をたたえて、令和7年度千葉県高等学校総合体育大会サッカー大会女子の部の総評とさせていただきます。

千葉県高体連サッカー専門部女子部技術 小林貴幸(千葉経済大学附属高等学校)